

み前には静けさがあります

総務局長 寺村秀嗣



神よ み前には静けさがあり
シオンには賛美があります

（詩篇六五篇一節）

新しい年をひと月過ぎました。各教会では総会を行い、昨年度の歩みを振り返り感謝と反省の時が持たれ、新しい年の道筋も定まったことでしょう。今年捧げる礼拝、計画されたプログラムにどのように関わり、またどのような方々が導かれるのか思い描きながら、新しい期待をもってスタートされた道のりに主の祝福をお祈り申し上げます。

新年度を展望する私たちのうちには、新しいことに取り組んでみようとする意欲がみなぎっていることでしょう。その途上において、私たちはさまざまなことに気を配り、用意しながら、最終的に良い結果が与えられることを心から願います。しっかりと備えたならば必ず報いがあるという経験をできるとしたら、それはとてもうれしいことです。祈りのうちに備えて計画を進めていくときに、私たちが思った以上の結果を主が用意してくださることがあります。喜びはなおいっそう大きくなることでしょう。

一方で、期待する心とは別に、この先どのようなことが待ち受けているのかと不安がよぎることもあります。どうやって予想される大事を乗り越えたら良いのか思索し、あるいは失敗するのではないか、良い結果どころか、大失敗するのではないかと恐れが先立つこ

とさえあります。この恐れはどこにでもついてまわり、私たちが容赦なく責め立てるかもしれない。喜びと不安、どちらが大きくなっても、私たちはこれらに心を支配され、振り回される可能性があります。たとえ主の導きを求めて始めたことでも、その途上で心を騒がせ、主を見失わせることになるとしたらたいへん残念なことです。

私たちの主はどのようにお答えになるのでしょうか。詩篇のことばに目を留めると、神ご自身の前には「静けさ」があると、言われています。この主の前に私たちは招かれています。主は良くも悪くも心騒ぐ私たちを知りつつ、黙れ、としっかりつけるのではなく、神ご自身の前にある静けさに招かれるのです。そうすれば、私たちの霊は静けさを取り戻すことができるとご存じだからです。

年会の準備が進む中、全国教会、また各部局、各委員会からのご報告が寄せられてきます。そして、その重みを感じます。一年の真実な取り組みをされた各教会、そしてそのお一人一人をこの主の静けさが包みますようお祈りいたします。また文字や数字では到底表しきれない隠れた愛の労苦と祈り、痛みが主の静けさの中でいやされるようにと主を仰ぎます。

ただ、み前の静けさの中で一つだけ鳴り止まないのは主への賛美です。ここまで助けてくださり、守り、祝してくださった主への賛美を私たちのうちに絶やさず、新年度を歩み始めたいと思います。

目次

- み前には静けさがあります……寺村秀嗣……1
- 教会総会を越えて、祈りのネットワーク、年会案内……2
- 関東4教区新年聖会、BTCリトリート報告……3
- 海外トピックス、国内教会局、読書のひろば……4
- 西日本ブロック・沖縄近況、静岡役員研修会……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

2019年 教会総会を越えて

一人ひとりの成熟が目標 主の力をいただきながら 奮闘する一年に

国内教会局長 岩上祝仁

「このために、私は自分のうちに力強く働くキリストの力によって、労苦しながら奮闘していきます。」(コロサイ一章29節)

教会総会を終えて、主よりのビジョンを捉えて教会活動が始められたことでしょうか。教会の働きと一人ひとりの歩みに主の祝福が豊かに注がれますように。

1 方向性をはっきりと

この箇所で「このために」と信仰生涯の方向性が明示されています。それは「成熟した者として立たせる」ためです。「成熟」とはキリスト者として、愛において、品性において整えられた存在となるということ。言い換えると「キリスト」に似た者となることです。キリスト者の成熟を目指すところがキリストの身体である教会の方向性ではないでしょうか。

2 どんな方法でも

教会でなされることは「キリストを宣べ伝えること」です。他のことをどんなに一生懸命に行った

としても、この一点が欠落していると教会は教会でなくなり、逆この一点をしつかり押さえていなければ教会は何を行っても、キリストを伝える努力を行うことができ、キリストもまたその方法を用いて、相手に福音が伝わるように働いてくださいます。ここには「あらゆる知恵を用いて」とあります。私たちは知恵を用いて、折りつつ、悩み考えた上で宣教・伝道に取り組みます。それには「伝えること、教えること、そして論ずること」が含まれていると聖書は語ります。どのように伝えるのかという時に、忍耐強く論しながら共に歩む信仰者の姿が見えてきます。愛することが宣教・伝道の根底に流れているトーンです。

3 活動の原動力は

今年もまたと思い始めると、疲れを覚えるのが人の弱さです。しかし、主はその弱い私たちでさえ用いようとしてくださいます。教会の働きを進め、信仰者の歩みを前へ進める原動力を「力強く働くキリストの力」とパウロは語ります。幾多の苦難を乗り越えたパウロは、主イエスの復活の力を実感していたのでしよう。私たちもまた、自分のうちに「キリストの力」が与えられていることを覚えたいと思います。この「キリストの力」を原動力として、今年も前進して行きましょう。そして、イムマヌエルの群れ全体で力を合わせながら、主の働きを進めて参りましょう。

出版事業部から……

祈りのネットワーク 2019年版のために 祈りの課題と写真を お送りください

久留米教会 吉村和記

コロサイ教会に宛てた手紙の冒頭で、パウロは「あなたがたのことを祈るときにいつも、私たちの主イエス・キリストの父なる神に感謝しています。」(一・3)と書いています。新約聖書の中で、パウロが書いた13の手紙のうち9つが、まずその宛先となる教会への喜びと感謝から始められていることは意義深いことです。

私たちも、イムマヌエルの全国教会のために祈る時、主がこれだけの教会を備え、神の国の拡大のために用いてくださっていることを感謝します。

今年も『祈りのネットワーク』発行のためにご協力をお願い致します。

①先生方の顔写真(単身の女性の先生方は教会員といっしょか、教会の活動でも可) ②教会外観の写真 ③祈りの課題3点

●提出期限 3月30日(土)

●送り先 久留米教会(吉村)

*可能ならばメールで。封書も可。
imori@immanuel.or.jp

メールの場合は右記のアドレスにお願いします。

第74次年会のご案内

3月5日～8日に開催 主の臨在を期待して

総務局長 寺村秀嗣

すでに各教会にご案内の通り3月5日(火)～7日(木)の日程で、国立女性教育会館(又エック・埼玉県比企郡嵐山町)で開催される年会の準備が祈りのうちに進められています。

●プログラム

3月5日(火)

受付開始は12時30分です。
午後1時 教団運営委員会・役員会(決算承認)
▽教役者の皆様は午後1時30分までに会場に到着をお願いいたします。

午後2時 開会礼拝 内山勝代表
午後3時 議事会Ⅰ
小礼拝 河村從彦師
昨年度の活動報告
夜6時30分 聖会Ⅰ
司会 大兼久芳規師
説教 内山勝代表

3月6日(水)

午前9時15分 研修会前半
午前10時40分 研修会後半

①昨年全国教会に実施されたアンケート結果に基づいて伝道についての研修。担当は神学委員会宣教研究部会。

②高齢化への対応についての研修。担当は厚生委員長の里村佳子氏(呉教会会員)。

会場が二つに分かれますが、プログラムを前後半に分け、講師が会場を移動し、各会場で同じ内容を語っていただく形を取ります。こうして全員が2つの研修を受けられるようにいたします。

午後1時30分 議事会Ⅱ
小礼拝 薦田崇志師
新年度方針発表など
▽議事会後引退女性牧師を送る会を開催いたします。

夜6時30分 聖会Ⅱ
司会 黛睦子師
説教 梅田登志枝師

3月7日(木)

午前9時15分 聖会Ⅲ
司会 川嶋直行師
説教 岩上祝仁師
午前10時30分
教職按手式・任命式
終了後転任事務
▽参加申込書等はすでに発送されました。年会資料を今月送付いたしますので、事前に目を通してご出席ください。

▽年会の前日から5日午前中まで若手牧師研修会が行われます。

▽年会のために祈りいたしたくとも、信徒の方々もぜひご参加ください。

関東4教区合同新年聖会 神の民として旅する教会 神が求めておられる聖化

2019年1月14日(月)

木更津教会 宮崎聖輝

新春のお慶びを申し上げます。2019年の関東4教区新年聖会が、1月14日(月)、イムマヌエル中目黒教会にて行われました。比較的、この時期は天候に悩まされるものですが、この日は見事に晴れ渡り、爽やかな青空の下、聖会を開くことが許されました。プログラムは午前の聖会と午後の宣教会が行われ、ともに祝されたときでした。

午前の聖会ではまず新成人の祝福の時間が持たれ、成人となられた方に講師の石田学師より祝福の祈りがなされました。

石田学師は日本ナザレン教団小山教会で長年牧会され、教団の理事も務められ、現在はナザレン神学校の校長としての責任も担っておられる器です。聖会メッセージは、申命記七章1〜5節、1コリント五章1〜8節が開かれ「この世の延長線上にない教会」と題して語って頂きました。私たちは、この世と分かちがたい存在ではあ



るが、同時にこの世から分けはなされた存在、この世から分離された共同体であること。アブラハムや出エジプトの記事を引用しながら、この世から分離されること無しに霊的な祝福はない。それは新約の時代にも全く変わることはない原則であり、神の民は、一時的なこの世の国籍を持つと同時に永続的な神の国の国籍を持つ特殊な共同体であることが語られました。そして持ち込んでほしくない4つの古いパン種が挙げられ、イスラエルの民はこれを持ち込んだこと

後、再び石田学師よりメッセージを頂きました。申命記七章6節、1コリント五章9〜13節が開かれ「天を見上げて共に荒れ野を旅する」との題で語られました。神の民の正体は、荒れ野を旅すること。定住者ではないこと。神の民の失敗は、定住者と変質したことにありと語られ、優先順位を神から豊かさに変え、この世を恐れるあまり普通の民と成り下がってしまったこと、この危険が語られました。しかし神は、こうした神の民、そしてコリント教会をも宝の民としてなお見据えてくださる。その恵みに応答し、共にホーリネスの道を旅しようと語られました。

2回のメッセージは、「私」に対する語りかけであると同時に、「私たち」教会全体に呼びかけるチャレンジでもありました。

出席者は聖会が252名、宣教会が167名でした。

BTCリトリート「冬の聖会」

神と心を一つにする者 期待を超えた恵みの機会



沼津シオン教会 荻野倍弘

今回でBTCリトリートへの参加は、四回目となります。第3回以来、毎年参加しているのは次に挙げる主の恵みがあるからです。みことばが真実に語られるから：

第一夜の聖会講師、吉村師はヨハネの福音書二〇章19〜23節から『固く閉ざした心を開かれたイエスの一言』と題して、献身者の根本は十字架の救いを体験し、復活の主と生きた関係を持つことと、力強く語りました。

主講師の小坂師(日本宣教会)は聖会第二夜でⅡ歴代誌一六章1〜10節から『あなたは必要とされている』と題し、主は今も神に全面的に信頼して神と心を一つにする者を求めておられる、と説教しました。お二人とも、聖書の単なる解説や注解書の受け売りではなく、ご自身が牧会伝道の現場で真摯に神のわざに励み、真剣に聖書を通して生ける神と向き合うなかで紡ぎだす生きた言葉を語られ、そのメッセージはまっすぐに私の魂の奥深くに届いたことです。生

きた神のこぼれを聴く恵み、それを年末ごとに体験するからです。献身者の集まる場だから……

初めて案内チラシを目にした4年前の秋、まず目を引いたのは、日程が年末の3日間であることでした。最初の感想は、「BTCとIGM青年部有志教職は正気か」であり、すぐそれに続いて「これはおもしろそうだ」という天邪鬼な思いを持ちました。常識的には無謀ともいえる日程だからこそ、それ相応の覚悟と主への渴きを持った者たちが集うに違いない、そう感じたのです。そして、私の期待以上の出会いを、主は備えていました。言うまでもなく教職と信徒の区別はなく、キリスト者は全てキリストへの献身者であるはず。そして毎年、日本全国から集う主を慕い貴重な時を捧げて集う器たちと、主を拝する喜びが与えられました。そのことを今年も実感し、神が共にいてくださる喜びを体験しました。



国内教会局から

教会建設の務めに
すべてを注ぎ出す覚悟は?

教会総会を越え新たな目標、標語聖句、年間計画を掲げて前進を始められたところではないでしょうか。神さまの御導きが豊かでありますように、また多くの実を結ばれますようにお祈り申し上げます。



私たちの信仰生活、また教会の歩みを進める上で、節目に目標や計画を立てることは、続く歩みにとって大きな助けとなります。ビジネスであれ、物作りであれ、学びであれ、計画の精度と目標達成の可能性との間には密接な関連があることは言うまでもありません。しかし、主イエスが塔を建てる喩えや戦いを交

■中国でキリスト教系学校が閉校 迫られる
中国で多数のキリスト教系学校が閉校に追い込まれている。教育活動は世界各地でキリスト教団

命じられたと、イタリアのオンラインメディア「ピターウインター」が1月13日伝えた。
中国の「新宗教事務条例」は、政府の認定を受けていない機関が宗教教育や研修を提供する行為を

北朝鮮の民族和解協議会が運営するサイト「黎明」は12月26日、平壤市内にある2つの教会でクリスマス礼拝が行われたと主張。「困難を乗り越えて形成された朝鮮半島の平和の雰囲気、サタン(悪魔)の妨害策動によって壊されることのないよう、平和の星が少しづつ光り輝くことを願う祝福祈禱が行われた」と紹介した。



海外トピックス

が行っているが、中国は宗教団体による教育を固く禁止している。北京近郊のカトリック邯鄲教区よって1988年に設立された「聖心学院」(生徒300人)は、2018年10月、当局から閉校を

禁止している。条例が2018年2月に施行されて以来、当局は中国全土で、カトリック、プロテスタント双方の教会系学校が閉校を命じられたと見られる。

■「トレビの泉」に投げ込まれた硬貨巡り波紋
ローマにある世界的名所「トレビの泉」に観光客が投げ込む硬貨を、ローマ市が回収し財源に充てる方針と報道。年間約150万ユーロ(約1億9千万円)に上るとも見られ、これまで硬貨を拾い集め慈善活動の資金にしてきた救援団体「カリタス」が困惑とカトリック系紙「アベニール」が報じたことから、反発する声が上がっており、ヴェルジニア・エレナ・ラッジ市長は釈明に追われた。市長は金額を把握しただけだとして、硬貨は今後も「カリタス」に寄付すると述べたものの、市長が当初方針を撤回するまでに追い込まれたとの見方も出ている。(平瀬聡樹)

読書の



2018年3月版

教義及び条例

信徒局の発足を反映して

イムマヌエル綜合伝道団 出版事業部扱い 定価六〇〇円(十税)

2018年3月に改訂された『教義及び条例』が、昨年末に発行されました。大きな変更箇所もありましたが、併せて載せる「各部署細則」や「各種規定」の改訂箇所を確認や、総会後に必要が生じた細則の変更手続きなどに時間がかり、遅くなってしまいました。担当者としてお詫び申し上げます。『教義及び条例』は、教団のあり方を定めるものです。教団設立に至る経緯を記した「略史」に続いて記されている「宣言」に、そのことが述べられています。ま

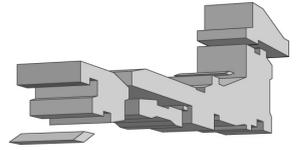


た、教団代表の監督権も教義及び条例に則って行使されることが明示されています。組織や機構も条例によって定められます。ですから『教義及び条例』は、信仰書のように読む書物ではありませんが、教団人として、いつでも確認できるように手もとに置いておくべきものです。

今回の改訂で、組織の大きな変更となったのは、「信徒局」の創設です。「監督制を明確にしつつ、より具体的に信徒と共に歩む教団運営を目指す」という方針が具体的な形となったものです。これまでに教育局の中にあつた壮年部と女性部が信徒局に移され、また、教団活動支援部が置かれて、教団の運営における信徒参画がより有効になされるための態勢が取られました。信徒局の実際の活動は時間をかけて充実したものとすることが期待されており、その充実に応じて細則はよりよく整えられていくこととなります。

信徒局の創設に伴い、教育局はその目的がより明確になりました。教育部はその中心として存続し、新たに設けられた青少年部の下に青年課、中高生課、教会学校課が置かれ、より緊密な連携をもって青少年の育成が進められることとなります。細則等を含めたすべての変更について述べることはできません。ぜひご自分の目で、私たちの教団の今の姿が現されている『教義及び条例』をご覧ください。(林)

国内教会局 スクエア



西日本ブロック・沖縄の

近況と祈りの課題

ブロック・アドバイザー

大兼久 芳規

◇近畿教区

昨年、近畿教区は大阪北部地震と2度の台風で被災した教会がありました。いま会堂や看板などの修繕が進んでいます。▼彦根教会は今年ゲストの方を招いての音楽コンサート、映画会を計画中。▼草津教会では、台風により電気看板が倒れましたが、特別礼拝や宣教師を迎えての礼拝で恵みを受けています。▼京都伏見教会では、毎月の子供特集や音楽集会を通しての働き、▼京都西教会は、10数年ぶりの野外礼拝、来日されたアンドレア宣教師の英会話教室を通して働きが進められています。▼枚方教会では特伝、聖会、地域の青年集会に参加し、働きを進めています。▼大阪伝法教会は、会堂に台風被害がありました。▼堺教会では、豊中教会とネットで繋いで双方礼拝や、合同野外礼拝が行われ、葛田聡毅師が兼牧の働きを進められています。▼15周年の和歌山教会では、ゴスペ

ル教室が始まり、ボーマン師のコンサートも祝福されました。▼高田教会は、昨年からの愛恵幼稚園の園舎の改修工事が行われています。▼王寺教会では、ゴスペル教室、パン教室、聖書を学ぶ会、親の会などを通して広く福音を浸透させています。▼神戸教会では、ギターや英語教室を通しての働き、支部教会のこひつじチャペルの働きが進められています。▼姫路教会では、久しぶりの「深まりゆく秋のコンサート」により、関係者継続者が起こされています。▼加古川教会では、健康的な戦いの中を通る方がおられる中、礼拝への継続参加者が与えられ、会堂の返済も終了。昨年引退され大津にいられた一木先生ご夫妻は、伊藤順子先生と湖風館で礼拝を守っておられます。9月には日本イエスの謙野先生をお迎えし、今年是小川先生をお迎えしての関西聖会と、きよきの流れが大切にされています。春には関西ユースが京都でもたれ、今年も4月にCamp2019(細田師)が準備されています。

◇四国教区

夏の四国聖会では、葛田崇志生により聖化の深みが語られ、今年も御用くださいました。▼徳島教会では礼拝・祈禱会に加え、きよめの学び、聖書を読む会、家庭集会が継続されています。▼香川教会は、今年献堂20周年の年。青年集会、家庭集会が続けられ、四国聖会にも多くの方が参加されています。▼高知教会では、家庭集会にも高齢の方が集われ、主の言葉に耳を傾けられています。▼今治教会では献堂20周年のチャペルコンサートがもたれ、教会案内のホームページを準備中です。▼松山教会はロビン宣教師、野田秀師を迎えての特集がもたれ、会堂外装と屋根の改修工事がなされました。11月には第3回四国壮年部大会が、ミッションからしだねの坂岡隆司兄を迎えて集会がもたれました。

◇沖縄地区

▼那覇教会では春からスモールグループによる聖研を始め、ポイストレーニング教室やコンサートももたれました。▼東風平教会は、今井先生ご夫妻が兼任され半分の礼拝を担当し、半分は信徒方による礼拝が継続されています。信徒局の女性部セミナーの会場となり、恵みを受けました。▼糸満教会では、6月にはプリンセル宣教師の来日65周年の礼拝と感謝会がもたれました。秋には吉村先生による沖縄聖会が3教会の合同礼拝ともにもたれました。昨年、引退された金城伸子先生も、近隣の教会の必要に応じておられます。

静岡教区

役員・リーダー研修会報告

活発なディスカッションも 聖なる教会を目指し

高田教会 浜田耕三

1月14日(月)の午後、穏やかな天候のもと、静岡教区役員研修会が国内局長の岩上祝仁師を講師にお招きして開催されました。会場となりました静岡労働会館には合計36名の参加者が集い、「ハラスメント」について幸いな研修の時を持つことができました。

小礼拝では葛田直毅師より、初代教会が転換点となる課題を乗り越え、大きな変貌と拡大を見た要因のきっかけに、弱い立場の方々に対する愛による配慮があったことが語られました。(使徒六章)

研修は「理論編」と「実践編」に分けて、岩上師が用意された資料に基づいて行われました。「理論編」では、教会は「聖なる者」とされた人たちの集まりであり、「聖なることを求める組織」である事が確認されました。それ故に罪の指摘や指導、矯正：も行なわれると同時に、私たちが弱さを持つ「救われた罪人の集まり」である事を踏まえて、愛の要素を忘れてはならない事が語られました。



「実践編」では、こうしたハラスメントの背景には時代的・文化的な問題、罪や感情の問題がある事が語られ、ハラスメントになりがちな具体例と正しいコミュニケーションの姿勢が示されました。またハラスメントを防ぐために、指導と感情を分けること、そして何よりも聖霊によって注がれる主の愛に満たされ、謙遜であることが語られました。そのためにも十字架を仰ぎ、「キリスト・イエスの心」(ペリピ二章3〜8節)を求めるべき事が語られました。それぞれの研修の後半には、和やかな雰囲気の中でグループ・ディスカッションの時間が持たれました。講義を通して教えられたことなど、具体的に直面したことなどが分かち合われ、時間を忘れるほどに活発に意見交換が行われました。そして研修の内容を共有し、それぞれが「聖なる教会を目指して」新たな踏み出しを致しました。

巻頭言

恵みを受けた先例者として



世界宣教局長
梅田 登志枝



広げた翼

Immanuel
His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

「キリスト・イエスがこの上ない寛容をまず私に示し、私を、ご自分を信じて永遠のいのちを得ることになる人々の先例にするためでした。」(一テモテ一章16節)

パウロは自分を強くして、忠実な者と認めて、この務めに任命してくださったキリスト・イエスに

きた人物でした。その恵みに対する感謝、感恩の情が伝道者生涯を突き動かしたといえるでしょう。
◇過去の自分に注がれた神様の恵みに感謝する
パウロは「神を冒瀆する者、迫害する者、暴力をふるう者だった」(13節)自分を忘れませんでした。そしてその自分を赦し、神様を愛する者へと造り変えてくださった神様の恵みも決して忘れませんでした。どれだけ信仰生活が長くなっても、神様の恵みによって罪を赦された者にしか過ぎないことを、生涯、心に留めたいものです。
◇現在の自分に注がれている神様の恵みに感謝する
パウロは自分を強くして、忠実な者と認めて、この務めに任命してくださったキリスト・イエスに

感謝していただきます。(12節)
信仰者として、神様に仕えるために必要な力は使命のある限り、今日も注がれ続けているのです。この主の恵みはキリストに対する信仰と愛と連動するかのようであふれるほどに与えられています。
◇将来にも約束されている神様の恵みに感謝する
最後にパウロは、自分にこれまで注がれた恵みは将来にも繋がる恵みであることを感謝しています(16節)。キリスト・イエスの憐れみと寛容によってのみ、生かされている自分を、主が後に続く人々の先例者としてくださるという恵みです。神様は過去も現在もすべての私たちをご承知の上で、敢えて私たちを、これからの時代と人々の福音宣教のために用いようとしておられます。
◇世界宣教も、この神様の恵みの法則が適用できます
ウイリアム・ケアリ宣教師による近代世界宣教の幕開けから220年余り経過しました。「あらゆる可能な方法を用いて福音を」という宣教方針は今の時代も、またこれからも変わることはないでしょう。
それは、神様の恵みによって罪を赦され、弱さを覆われ、主を愛するように変えられた人々によって引き継がれてきたのです。
一人ひとりが福音宣教のために、神様の大きな恵みを与えられた先例者としてこの時代に存在していることを感謝しましょう。

12月のザンビアは雨期で雨が多
いはずですが、今年は雨量が少
いようです。地域によっては全く
雨が降らず、家畜の餌の草が枯れ
家畜が餓死しているところもある
と聞きました。ほとんどが農家の
ザンビア人にとっては試練の年と
なりそうです。
クリニックは、外来患者はさほ
ど多くなく、落ち着いていました。
産科ではハイリスクケースが月の
前半続き、やや慌ただしい日々で
した。事故なく、死亡例もなく守
られたことは感謝でした。
12月にPWCの医療部責任者が
新しい方になりました。女性で
医師でもある方です。今までこの
部の責任者は医療従事者であつた
ことがないので、今回新任の方が
医師であることは、医療への理解
とそのアプローチがどのようにさ
れていくか祈り、期待していま
す。その方が着任してすぐ意欲的
にPWCのクリニックや病院を見
てみたいとのことでした。



ZAMBIA

ザンビア

根廻恵子*2018年12月30日

隣人の新ジェンボ地区代表のご
夫妻と週一のバイブルスタディを
持ち始めました。ともに聖書を開
き神様のみことばに心を傾けられ
ることはとても祝福のひと時です。
また良き交わりの時ともなってお
り、互いの課題などを知り、祈り
合える良き機会となっています。
25日にジェンボ教会でクリスマス
をお祝いしました。賛美・メッ
セージとともに年齢別のグループ
賛美や聖書学校の学生の夫人たち
によるスキットなどの出し物でイ
エスさまの誕生をお祝いしました。
礼拝の最後には日本の教会などか
ら送っていただいていた古着と、
子どもたちにはお菓子のプレゼン
トをシェアさせていただきました。
教会自身ではプレゼントを用意で
きなかったとのことで、クリスマ
スにプレゼントを配ることができ
たことに感謝していました。プレ
ゼントを配る前に「もらえること
が当たり前」という意識を持たれ
ないよう、クリスマスとプレゼン
トの意味を分かち合い、プレゼン
トをお渡ししました。
日本から捧げていただいたもの
が喜ばれ、用いられているのを見
せていただき、皆様のサポートに
本当に心より感謝しています。そ
の後みんなで食事をして解散とな
りました。

12月のザンビアは雨期で雨が多
いはずですが、今年は雨量が少
いようです。地域によっては全く
雨が降らず、家畜の餌の草が枯れ
家畜が餓死しているところもある
と聞きました。ほとんどが農家の
ザンビア人にとっては試練の年と
なりそうです。
クリニックは、外来患者はさほ
ど多くなく、落ち着いていました。
産科ではハイリスクケースが月の
前半続き、やや慌ただしい日々で
した。事故なく、死亡例もなく守
られたことは感謝でした。
12月にPWCの医療部責任者が
新しい方になりました。女性で
医師でもある方です。今までこの
部の責任者は医療従事者であつた
ことがないので、今回新任の方が
医師であることは、医療への理解
とそのアプローチがどのようにさ
れていくか祈り、期待していま
す。その方が着任してすぐ意欲的
にPWCのクリニックや病院を見
てみたいとのことでした。

隣人の新ジェンボ地区代表のご
夫妻と週一のバイブルスタディを
持ち始めました。ともに聖書を開
き神様のみことばに心を傾けられ
ることはとても祝福のひと時です。
また良き交わりの時ともなってお
り、互いの課題などを知り、祈り
合える良き機会となっています。
25日にジェンボ教会でクリスマス
をお祝いしました。賛美・メッ
セージとともに年齢別のグループ
賛美や聖書学校の学生の夫人たち
によるスキットなどの出し物でイ
エスさまの誕生をお祝いしました。
礼拝の最後には日本の教会などか
ら送っていただいていた古着と、
子どもたちにはお菓子のプレゼン
トをシェアさせていただきました。
教会自身ではプレゼントを用意で
きなかったとのことで、クリスマ
スにプレゼントを配ることができ
たことに感謝していました。プレ
ゼントを配る前に「もらえること
が当たり前」という意識を持たれ
ないよう、クリスマスとプレゼン
トの意味を分かち合い、プレゼン
トをお渡ししました。
日本から捧げていただいたもの
が喜ばれ、用いられているのを見
せていただき、皆様のサポートに
本当に心より感謝しています。そ
の後みんなで食事をして解散とな
りました。

隣人の新ジェンボ地区代表のご
夫妻と週一のバイブルスタディを
持ち始めました。ともに聖書を開
き神様のみことばに心を傾けられ
ることはとても祝福のひと時です。
また良き交わりの時ともなってお
り、互いの課題などを知り、祈り
合える良き機会となっています。
25日にジェンボ教会でクリスマス
をお祝いしました。賛美・メッ
セージとともに年齢別のグループ
賛美や聖書学校の学生の夫人たち
によるスキットなどの出し物でイ
エスさまの誕生をお祝いしました。
礼拝の最後には日本の教会などか
ら送っていただいていた古着と、
子どもたちにはお菓子のプレゼン
トをシェアさせていただきました。
教会自身ではプレゼントを用意で
きなかったとのことで、クリスマ
スにプレゼントを配ることができ
たことに感謝していました。プレ
ゼントを配る前に「もらえること
が当たり前」という意識を持たれ
ないよう、クリスマスとプレゼン
トの意味を分かち合い、プレゼン
トをお渡ししました。
日本から捧げていただいたもの
が喜ばれ、用いられているのを見
せていただき、皆様のサポートに
本当に心より感謝しています。そ
の後みんなで食事をして解散とな
りました。



ZAMBIA

ザンビア

富澤 香*2019年1月7日



TAIWAN

台湾

平瀬義樹・光世*2019年1月9日



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子*2019年1月8日

2018年は、私にとって厳しい年でしたが、新しい教会でクリスマスをお祝いし、心をひとつにイエス様に目を向け感謝とともに過ごすことができました。良い締めくくりとなりました。宣教師館は残りの反対側も何とか建ち上がるように、これからも祈り続けて頂きたいと思います。少しでも早く完全に住めるようになって、クリニックの働きに専念できるようにと願っています。私自身も看護に集中するため、早く建物の件を完了して、クリニックと教会に向き合えるよう願っております。

「見よ。わたしは新しいことをする。」(イザヤ四三章19節) 主の御名を心より賛美申し上げつつ、新春のご挨拶を申し上げます。全国教会へのクリスマスレターにも記載しました通り、この年は、会堂移転の年です。主の確かなお導きと教会の一致が与えられますよう、切にお祈りください。クリスマス諸集会は、毎年、第二週の台南よりスタートします。今年も、月一回の集いが毎週の礼拝となつて初めてのクリスマスでしたが、クリスマス特別な礼拝を守つた後、茶菓を囲んでの交わりの時がありました。並行して台南在住の邦人主婦が中心となつた「こどもクリスマス会」がもたれ、地道な種時きが続けられています。

マス、24日の夕方にキャンドルサービスを守りました。クリスマスをきつかけに、毎年数名の方が継続して来会されます。愛兄弟方が来会された自分の関係者に、声を掛け、フォローアップを進めて行きます。この年のメインプログラムは、教会員のハレルヤコーラスでした。長年の祈りであり、夢であったプログラムを共有し、主にすべての栄光を帰す恵みとなりました。クリスマス礼拝にはK姉が洗礼の恵みに与られました。H姉の紹介で、昨年の春節以降に継続して来会され、求道しておられました。洗礼式後の信仰の証しで、「(日台の)国際結婚という複雑な環境の中、妻として、母として、自分の力で切り盛りしてきたが心に平安がなかった。家庭の諸問題も、我慢するしか仕方がない。心を落ち着ける場所が欲しかった。」との言葉に、愛姉のすべての痛み、悩みを知っておられ、休ませてくださる主の愛を覚えました。

改めて今のメンバーを振り返って見ると、帰国した方々やお仕事、人事異動や留学などで、海外に転出した方々という出入りのある中、昨年初めて来られ、今も続けて来会する方が加えられていることは、大きな恵みです。

2019年、冒頭のイザヤ四三章の聖言を受け取り、新しい年の歩み出しをしました。教会家屋の移転という課題が急浮上し、祈りつつの歩みです。このことのため、お祈りを宜しく願います。

「主はご自分の羽根であなたをおおいあなたはその翼の下に身を避ける。」(詩篇九一篇4節) 今年のクリスマス礼拝は、ウェスレアン総理ギリアモ先生夫妻のお招きを頂き、ガバルドン教会の50周年記念礼拝に出席しました。記念礼拝自体は午後でしたので、午前の礼拝はそこから20分ほどの距離にあるシクロン教会に立ち寄り出席しました。この二つの教会で仕えていた牧師たちは、かつての教え子でしたので久しぶりの再会を喜び、そして何よりも私たちが励まされました。卒業してからも辞めていく、あるいは辞めざるを得ない牧師がいるなか、彼らはしっかりと信仰を保ち、戦いつついることを覚えるだけで主への感謝が湧き上がってきました。

その後、ガバルドン教会の50周年記念礼拝に出席しました。総理ギリアモ先生が「絶えぬ恵みのゆえに、主に栄光を」と題され、教会の功績によるのではなく、神

の恵みの偉大さについて語られ、お年寄りのメンバーが涙するほどに、感動と祝福に満ちたメッセージとなりました。帰り道、危険な地域があるとのことで教区長ベンジー先生の車で安全地域まで先導して頂き、そこからはスマホのナビ(地図案内)に従って無事に帰ってくる事ができました。

バギオでのルソン島青年大会後、義実が風邪となり、そして年末希乃実が腹痛、下痢、嘔吐、熱で病院に担ぎ込まれ、検査結果、点滴と抗生物質投与で一日で退院(30日)、ところが入院した当日(29日)夜から実和子と実喜も同じ症状が出て、寝込んでしまい、恭子は希乃実と病院で、常喜は子どもたち3人と宣教師館で過ごすこととなりました。30日には体調も回復していたこともあり、子ども3人と一緒に希乃実の退院に迎えに行きました。フィリピンの大晦日、夜9時からのファカルティファミリー感謝会に出席半ばで退席、義実、実喜がまだ本調子ではなく、恭子は看病、そのまま年が明け2日には恭子が食中毒(カレー?)。5日に回復の兆しが見えてきたところで、5日の夜に常喜が子どもたちと同じ症状で倒れ、7日からようやく回復し始めました。振り返ると、「明けましておめでとう」をみんなで一緒に言えてなかったような気がしました。でも家族で祈り、病と戦い、また神様の憐れみの手に触れられていた年末年始だったように思います。



CAMBODIA

カンボジア

葛田緑乃*2019年1月8日

「どうか、あなたの栄光を私に見せてください。」(出三三・18)
この報告を認めている今日は11月末から12月末までの宣教活動を終えて帰国後8日目、2018年最後の聖日礼拝を前にした土曜日です。心躍るような主の働きの印を数々見せて頂いた旅、何からお伝えすれば良いか誌面の枠内での報告です。カンボジア・ニュースレターを送らせて頂いています。先平方や兄弟方には働きの報告がもう少し具体的にお届けしておりますので、もし送信をご希望の方は私のメールか郵便にてお申し込みください。

OKとされたのです。いざという時にお隣りに駆け込める道は重要なことでしたので、工事の遅れも主のご計画と、同行した一同と主の御名を賛美しました。
帰国前日、建設事務所に再度完成予定日を尋ねましたら2月には完了すると確信をもった返答。果して本当に?という感じですが、主は常に最善をして下さる方、待ち望む信仰で安んじております。神様の関心事は外側の建物に優る伝道者や信仰者の霊的神殿建設に向けられており、その面で特に指導者としてのヴァンディ先生の信仰の成長は主の御名を崇めるものでした。これまでは私に導かれての祈りの日々が、今回、毎晩退室前に彼の方から「一緒に祈りを!」と言ってこられた時は心から主に感謝しました。一か月の滞在中、心を一つにした祈り会が毎晩続けられました。これは彼自身の中に使命の自覚が深められた証しと、主が働いておられる事実にも感動と感謝で一杯です。また、もう一つの特ダネは大きな表現かも知れませんが、この度の滞在中、カンボジア宣教の歴史上最初の特筆すべき「宣教会議」が持たれたことです。出席者は数名(HKJCFの牧師アレックス師、宣教隊リーダー、久野兄、KCCからはヴァンディ師、グレッグ宣教師、マーク宣教師、私の計6名)での会議でしたが、討議内容がこれまでのカンボジア宣教では辿りつけない宣教の実体にメスをいれ



た課題への挑戦と語らいの「宣教的」語りでした。過去5年間の宣教活動の見直し(回顧)と次の5年間への展望・方向づけとなる救霊と自立教会建設に役立つ宣教支援となる働きとするべく、支援を受ける現地人牧師と宣教支援の側からとの意見交換と祈りの宣教会議でした。この様な内容の会議は恐らく他の宣教団体や現地伝道者の脳裏には論外な理想案でしかない現実で、分っていても不可能とされ、何時までも諸外国に頼った教会建設の会議が継続されてきたのではと思うと、この会議は聖霊による会議であったと、深い感謝と納得の与えられた会議でした。貧しい生活の中からの什一献金はわずかなものなので牧師の生活を支える献金額は何百人の改心者を要する実情ですが、なお信仰のみで戦いを進めてゆくKCC伝道者のために続柄をお願いします。私の足の痺れのために何らかの改善の道を探っておりますので、そのために、またダビデ君のためのお祈りも引き続き宜しく。■

- 会計報告12月分
宣教献金 三、四四九、九五〇円
月平均 二、〇五七、八二二円
お祈りの課題
ザンビア (根廻)
◆昨年、守れたことの感謝
◆資格クリニックの祝福のため
◆生活が守られるように
ザンビア (富澤)
◆ザンビア訪問の申し込みが満たされ、準備が整うように
◆宣教師館の片側の建物の完成のため
香港 (鹿島)
◆教会総会を感謝のうちに終えられたこと
◆創立10周年記念誌の発行準備のため
◆牧師たちの出入りと良き出会いが与えられますように
カンボジア (葛田緑乃)
◆建設中の本部他3棟が無事に完成し、聖別され、主の働きが前進するよつに
◆ヴァンディ師、グレッグ宣教師、マーク宣教師の3人の霊的一致と御霊の能力が注がれ、群れを導く働き人として聖別されますよつに
◆KCCの全伝道者が救霊の情熱に燃やされ、弟子訓練の中にある回心者の中から献身者が興されるよつにお祈りください
フィリピン (豊田)
◆新年から後期が始まりました。学生たちがサタンからの誘惑攻撃から守られ訓練と学びに励

- むことができるよつに
◆聖書大学での神学教育(聖書解釈)の奉仕のため
◆事故、事件、怪我、過ち、災害から家族が守られますよつに。子どもたちの学びのため
ケニア (葛田就子)
◆巡回の奉仕が祝されるように
◆テヌウエク病院の働き人(ルカ一〇・2)特に麻酔科と検査室の必要が満たされるよつに
台湾 (平瀬)
◆会堂移転のために、主の確かなお導きと教会の一致が与えられるよつに。(8月までに移転)
◆クリスマス諸集会に来会された方が続けて来られるよつに。
◆暦の上では新年ですが、台湾は年末の装いです。良き締め括りのために。(春節2月2~10日)
◆寒波が2週おきに来襲しています。私たちの健康と生活のみ守りのため。子どもたちの将来の導きのため
グローバルユースミニストリー (葛田康毅・由理)
◆5月に完成を予定している活動拠点(フロリア・ティン・センター(GTCC))の建設が順調に進むよつに
◆GYMの使命を共有し、支える国際教会の設立に向けて動く中、必要な集会場、経済、人材等が与えられるよつに
◆東京に転居できた感謝と、宣教師の健康が強められ、働きを有効に進める知恵と恵みが与えられるよつに

聖宣神学院報



Immanuel Bible Training College

壁

院長 ● 河村 從彦

「だれがおまえを」

(出エジプト二・14)

モーセは若いとき、今で言うなら業務上過失致死事件を起こしています。原因は、自分が良いと思ってることは人も受け入れてくれるはずという、二世などにありがちな間違った万能感でした。この時、仲間のヘブル人が壁になってくれました。「だれがおまえを、私たちの上に任命したのか」。これは、モーセが本当の意味で神さまに出会う備えでした。

人間は最初、どこまでが自分の人格的範囲かわからず、他者の領域に踏み込んでしまいます。そうすると相手からやり返されたりして、そのことで、自分がどこまでやっていいのかを学習します。ところが、このことを学習せずに大人になると、自分の言動が周囲にイヤな思いを与えていることがわからずに振る舞います。やっぱりなのはそれが善意や信仰から出ていると思っていることです。



神学院の図書館、食堂の下にあります

人格的範囲が曖昧だと、自分を互いに感じている世界です。恋愛感情も同じです。とろけるような一体感を求めたり、相手自分の世界に引き込もうとしたりします。しかし結婚は、人格的範囲を互いに感じている世界です。

守るために他者に対して批判的・攻撃的になります。攻撃された側は自分が足りなかつたと思ひ込みを受けます。しかしこれはうまく行きません。攻撃する側の「これくらいならやっていいんだ」という間違った思いを強化します。本当は、社会はどこまで許してくれるかを示す壁が必要なのです。

振り返ると、壁は大切でした。人にどう受け取られるかわからずやっていたことについて、「あなたにはわかっていないかもしれないけれど、周囲は不快なのですよ。傷つくのですよ」と諭してくれる信徒を主に備えてくださいました。そのような経験を通して、自分の人格的範囲を少しずつ学びました。本当にありがたいことです。

神学エッセー

「新約神学」という世界 ②整理の仕方を知ること



葛田崇志

前回は新約神学の生い立ちと特質について簡単ながら触れた。この回では、新約神学の実際の方法について紹介したい。つまり、新約神学を名乗る書籍を手取る時にどのような目次の本を手にするようになるか、と言う話である。

大まかに言えば二通りの新約神学書があると言える。一つは主題(テーマ)型、今一つは著者型。主題型の目次は神学書らしく、組織神学書のように並んでいる。「新約における神論」「キリスト論」「聖霊論」「教会論」など、組織神学の項目に基づいてテーマが取り上げられて、新約聖書内の各書で何が記されているかを整理する方法である。

主題型の利点は何と言っても使い易さである。その日の伝道会で「新生」について語ろうと思えば、すぐに目次からそれに該当するページを見出すことができる。ペーパーコスト礼拝の準備をするならば、例えば聖霊論か教会論を参照すれば、相応しい聖句箇所を見出すことができる。

ただ難点もある。神学書の構成が組織的であるために、各項目に取り上げられる聖句が、十分に積义的な検証を経ることなく、プロフィール・テキスト的に羅列される危険が絶えず潜んでいる。例えば「神の愛」の項目を開けば、間違いなくヨハネ三章16節が引用されるであろう。しかし、そこに言及される「愛」が、使徒ヨハネにとつてどういう意味なのか、そもそも16節は、ヨハネの言葉なのか(新改訳聖書)、それともそのも主イエスのおことばなのか(多くの英語聖書)、など丁寧な検証なく、新約中の該当聖句が、組織的な構成の都合で並べられ、それが「新約聖書の神学」として紹介されてしまふ、という危険である。つまり、記者の意図よりも、組織的な構成の都合の方が優先され得る(念のため、必ずそうなる訳ではない)。

他方、著者型の目次はテーマよりも執筆した記者の福音理解に重点を置く。従って目次は、「マタイの福音理解」「マルコの福音理解」「ルカの福音理解(使徒の働きを含む)」「ヨハネの福音理解」というような按配になる。つまりそれぞれの記者が抱く福音理解の特色が関心の対象になっている。二千年前のパレスチナ・地中海周辺の教会の様子が生き生きとよみがえるような書になる可能性が大いに秘められている。利点・難点については次号で触れたい。(続)

◆一年の学びの締め括りに

恵みあふれる4年間

正規コース 大谷のぞみ

「起き上がった、ダマスコに行きなさい。あなたが行くように定められているすべてのことが、そこであなたに告げられる。」「さあ、なにをためらっているのですか。立ちなさい。」

(使徒の働き二二章10節、16節)

1年間、真剣に主の導きを祈り求めて、語られた、冒頭のみことばを握って、神学院に入学し、4年がたとうとしています。本当にあつという間の4年間でした。この4年間はどうかと聞かれました。「楽しかった。」と答えました。もちろん、いろんなこともありましたが、何度私には無理と思っただかかわりません。何度逃げ出したくなったことでしょうか。それでも、「楽しかった。」と申し上げることができるとは、神さまの恵みと憐れみが十分すぎるほどにあつたから、ご指導くださった先生方、実習先の教会の方々が、愛と忍耐をもって祈りご指導くださったからであります。心から感謝申し上げます。

この4年間で一番語られたことは、一人の魂を大切にし、寄り添

い、仕えることです。まず、神さまが私に寄り添ってくださり、先生方をはじめ、かかわってくださったすべての人から、お手本を見せていただいた4年間でありました。

神さまの光に照らされたら、学ばせていただいた姿には程遠いものであると告白せざるを得ません。そんな私をも、「わたしのために働いてくれないか?」と遣わしてくださる神さまは、本当に恵みと憐れみに富んだお方です。

今まで、多くのお祈りとご支援をいただき本当にありがとうございます。これからは、本当のスタートですので、なお、小さき者のためにお祈りいただけましたら幸いです。ごさいます。

◆一年の学びの締め括りに

オヤジ神学生にも恵み!

正規コース 竹内俊之

「ヨセフは兄弟たちに行った。『私はヨセフです。父上はお元気ですか。』兄弟たちはヨセフを前にして、驚きのあまり、答えることができなかった。」

(創世記四十五章3節)

私はヨセフのストーリーが大好きです。ヨセフは幼い頃、いざれ真実となる自由過ぎる預言は兄

ちの怒りを買いました。私には、何者にも付度や媚びる事なく、見たまま、聞いたままを語り、ドタンの穴に落とされ、奴隷として売られても、兄弟を恨まず、呪うことなく、一途に神を信じ、全て神に相談し続けたストレートで「ど真面目」な彼は、神に愛されたゆえにエジプトの宰相に用いられます。そして四五章では遂に、純情ストレートなヨセフは子供時代のように、ほとぼしる愛情で兄たちと話しかけます。そして、「告ります!」それから泣くは泣くは!魂は決壊し、理知的な指導者としての顔はいつしかヤコブの息子、ヨセフに戻っています。神はいつもヨセフとおられ、試験を克服し続ける祝福の日々でした。穴に落とされても殺されなかった恵み。獄中の人から宰相に上り詰めた恵み。そして最後に最高の恵みは兄

弟やヤコブ父さんとの再会の恵み……しかし最大の恵みは宰相としての仮面を外し、ヤコブ12番目男子として家族と信頼しい、思いのままに生活を楽しめる!ことでもあります。

私の3年間の神学院生活も、最初は「クリスチャンらしく、神学生らしく、誰よりも謙虚に、誰よりも穏やかに。」でありました。そう、神学生だから、牧師だから!と本来の自分と異なる、与えられた役割り、を演じさせられる別人の自分でなく、そのままのヨセフが、竹内俊之が、イエスさまと伴に学べるこの環境こそが「恵み」であります。

◆一年の学びの締め括りに

神学生として

学んだこと

正規コース 金成星美

「しかし私にとって神のみそばにすることが幸いです。私は神である主を避け所としあなたのすべのみわざを語り告げます。」

(詩篇七三篇28節)

いつも神学生のために祈り支えてくださりありがとうございます。冒頭のみことばは、卒業を目前にしたこの年の初めに与えられたみことばです。詩篇七三篇の最初には、作者が人と自分を比べて足

がつかずきそうになり、歩みが滑りかけたことあります。神学生となつてからの歩みを振り返ったとき、私もこの詩篇の作者と同じように何度もつかずきそうになつたり、心揺るがされたりしたことがあつたことを思い出します。この道でやっていけるのだろうか、私には他の道がいいのではないかと、周りの人たちがいい人生を歩んでいるように見える、など悩み葛藤したこともありました。

また、献身して神学校に入ると決めた際、「この献身が神様のみこころでないなら道は閉ざされるだろう」と主にゆだねて今日まで来ました。そして確かに、思いがけない問題が降りかかったこともありましたが、けれども、そうした葛藤や問題の中にあつた時も、最終的な結論として28節にある「避け所なる主」を深く知る神学生生活だつたと思えます。

伝道者として、自分自身がいつも神様のみそばにいますか、そのことが奉仕の中でも生活を中에서도問われています。私自身が主の前に生きていけばしっかりと進むことができ、その霊的な姿は内から外へと現れ、隠したり偽ったりすることができないということも知りました。

卒業後の歩みも、どこに遣わされ、どんな方々に仕えていくかは主に委ね、ただ主の前にある幸せな歩みをしていきたいと願っています。



私の神学生時代
信心の道場
16期生 ●山田 隆



私は召命の聖言を受け、丸ノ内教会の祈禱会の折りに大胆にも召命の証しをした。葛田二雄主牧・神学院院长が来会者を見渡して「ホラ見たね、聞いたろう」と喜んでくださった。受け入れられたことの喜びと、畏れおののきを覚えた。まだ入信して駆け出し3年目で、教会の一役員・ご夫妻のお仕事のお手伝いをしていた時の召命だった。聖言はヨシユア記一章6節「心を強くし、かつ勇め」、1963年4月であった。ただ一人、東北本線の車中で目を閉じ、主に祈った。「私は孤独でもありません。しかし『この山を我に与えよ』と。北浦和の駅から神学院に足を運んだ。信仰年限などを配慮して4年間の入学を許され、私は1年間を予科生として過ごし、次の年に第一六期生の竿代照夫兄、小田満兄などのクラスに合流した。またとない立派な環境、年かさばかりは少々上でも何も持たない私にはありがたい組み合わせであった。

授業は、黒板に達筆な文字、イラストなどで講義される葛田院長はさすがにすばらしい授業だった。多彩な先生方が教鞭を執ってくださった。誠実さで一杯だが単調な語り口で、つい首コックリしてしまう先生(先生は温和)もおられた。後年、横浜に移転し、特別集会ではちよつと懐かしい東北弁丸出しよろしく牧会の極意を教えてくださいました先生……。横浜の新館に送迎の折、本館の急坂を葛田院長と一緒に上り下りしたある日、「空室建築の時ほうんこらシヨツと力むんだよ！」と、ユーモアに溢れた励ましをいただいた。北浦和時代、葛田初代総理は後樂園でのピリー・グラハム大会の実行委員長として多忙を極めておられた。授業中、メモが廻つてきて、自動車(宣教師)で送迎することがしばしばで、「王の用なり」と応じて卒業以降も続いた。蛇足ながら、ピリー・グラハム著『世界は燃えている』は主の再臨をも含み、聖書的で平明な、行き届いた書で多くの活力を受けた。神学院時代は、人間を知り、皆で苦勞すること、揉まれることで、実社会よりも厳しい面があった。振り返ると「人見知りからの脱却」は私の見えない必須科目であった。多くの時間を割いて御用に当たってくださった先生方の愛の労苦を今さらながらに気づかされる。一線に出て、陰の奉仕に専念することの大切さを教えられたように思う。卒業してから、そのまま葛田初代総理の牧する丸ノ内教会の副牧の一人となった。神学院には結局9年間住むことになった。

同窓生の近況

43期生

王寺教会 ●田辺寿雄



奈良県の王寺教会に派遣されて、4年が過ぎようとしています。今でもふと、車を運転している時などに、「ああ自分は今、奈良に住んでいるんだなあ」と不思議な気持ちになります。王寺教会は、今年3月31日の教会創立記念日をもって、開設57年目の歩みに入ります。子どもからお年寄りまでが輝ける教会を目指しています。今年には特に「子育て中のお母さんたち」を対象に伝道するように導かれています。5月に講師を迎えて、母の日歓迎礼拝と講演会を持つ予定です。奈良に来てすぐに、奈良県福音宣教師協会の加えて頂きました。2か月毎の定例牧師会、県民クリスマスや講演会などの活動を通して、「一緒に時間を過ごしたい」と思える同窓の友が与えられました。年に数回、夫婦で参加できる学びと食事を兼ねた親睦会を持つようになり、最近ではラーメン同好会も始まりました。今年、息子が大学生に、娘が中学生になります。ただただ、神様のあわれみです。

神学院スタッフ…恵みの想起

年末リトリートの恵み

經理課 渡辺真理

年末行事でBTCリトリートが開催されました。私にとってこの時期は、炊事等の奉仕を無事乗り越える事が出来るか、一番緊張する時であります。終わってみて感じた事は、いつも年末が一番恵みを頂いたと思うことです。説教者の熱い思いと献身の証し等から、多くの共感と励ましを頂きます。参加者からの真実な証しを聞き、来年も参加して欲しいと願います。個人的には、牧師として再献身の祈りを献げ、新しい年を迎える清々しい時が与えられます。

- 卒業式・終業礼拝に向けて最後の一走りです。卒業式は、3月1日(金)午後1時30分開式です。
- 3月4日(月)の入学審査のためにお祈りください。
- ペテルハウスについてのお問い合わせは学務課・馬場姉まで。
- キャンパス裏手は廃屋が解体され、再整備が始まりました。
- 本館屋根の補修は4月に着工、5月の同窓会までに完成予定です。
- 宮織ボランティアのご奉仕にお加わりいただける方がありましたら徳竹信雄先生にご連絡ください。
- 神学院祈り会は5日(火)です。
- 後援会から
 - ・後援会の創立70周年記念感謝金は70年の恵みに対してそれぞれ感謝を表したく、可能な範囲でお加わりください。1月末で一千万円が献げられ感謝致します。
 - ・引き続き世話人のご推薦をお願い致します。

学苑だより



サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。12月の会計報告をさせていただきます。

12月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥2,000,000

教会員による
「神学院サポート献金」
¥996,500

教会団体による「神学院献金」
¥488,775

合計 ¥1,485,275

その他の献金(一時・特別)
¥187,010

・振替：00230-0-10138

公報

本部通達

「わがたましいよ。なぜ、おまえはうなだれているのか。私のうちで思い乱れているのか。神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。御顔の救いを。」
 (詩篇四一・5)

1月末の大切な教会総会を越えて各教会で良き教会年度の区切りと新たな進発がなされたこと存じます。新教会年度のすべての計画・方針・活動が主に導かれて参りますように。さまざまと困難な課題が山積するこの時代にあつて、うなだれてしまうのではなく、主の間断なき愛と恵みを仰ぎ見つつ、主とともに歩み、主の福音を証しし、主の栄光が拝される営みとなりますようお祈り申し上げます。

この時期は、殊の外、寒さと雪との戦いが厳しくなっている北国・雪国の地域の諸教会を覚えて、主のみ助けをお祈りしましょう。

■本部

(会議)

《第74次年会 準備祈祷会開催》

4日(月) 午後2時〜3時半

(OCC411会議室)

4日(月)〜5日(火)

拡大運営委員会(年会準備)

12日(火) 会計監査

(2018年決算書監査)

18日(月)〜19日(火)

神学委員会

神学部会/聖書部会

《JHA関係》

10日(日) 遠州聖会

25日(月) 関東JHA評議員会

■総務局

《第74次年会の関連のお願い》

年会は、国立女性教育会館(又エック)で3月5日(火) 午後1時半(必着)〜7日(木) 午前11時半までの開催となります。詳しくはチラシをご覧ください。食事や宿泊の申込締切は今日8日(金)(本部必着)です。各教会を通じてお申し込みください。

なお、現在、本部で行われている最終的な準備のため、前後の出入りのためにもお祈りください。なお、準備・運営のためにさまざまな係分担をお願いしておりますが、ご協力をお願い申し上げます。

昨年同様、先生方には事前に年会資料を送付いたします。質問等がある場合は、2月26日(火)までに、本部・総務局長宛に書面にてお送りください(メール・FAXも可)。

▽「境内地 境内建物の登記簿本」の送付にいつもご協力いただいておりますことを感謝申し上げます。

会堂建設等で提出後に変更のありました教会は、速やかに最新のもの提出をお願いします。本部にて、被包括法人の最新の状態を把握しておく必要がありますので、ご協力をお願いします。

▽教団ドメインのメールアドレス(@immanuel.or.jpや@igm21.com)を使用の先生方で、新規登録や変更・廃止、メールアドレスの希望などがありましたら、本部総務局の佐藤信行師までご連絡ください。

▽本部からの発送郵便物の集荷サービスの変更に伴い、毎月末に各教会宛に発送している定期の本部便に同封できる印刷物は、各教会宛2〜3枚までとなっています。それを超えるチラシ等の発送は各部署で発送作業をお願い致します。ご不明な点は総務局まで。

▽単位法人格を持つ教会は、毎年の法的義務として、毎会計年度終了後4か月以内(本教団の場合、通常4月末まで)に、宗教法人の事務所へ備え付けの書類の写しを、各都道府県所轄庁に提出するようお願いします。この場合、事務所に備え付けの書類とは、役員名簿、財産目録、収支計算書・貸借対照表(作成している場合)、境内建物(財産目録に記載されているものを除く)に関する書類、事業に関する書類(行っている場合)となります。提出の際、同じ写しを本部総務局宛にもご提出ください。よろしく願います。

合計は昨年未で一、六三二、六九〇円でした。

▽宣教師の2019年の帰国報告予定(詳細日程は未定)

*根廻恵子宣教師(ザンビア) 2019年9月中旬〜2020年4月

▽2019年、ザンビア宣教師訪問の参加者を募集中です。

*訪問地:ザンビア共和国 ジェンボ・クリニック(富澤香宣教師、根廻恵子宣教師)

*日程:2019年8月27日(火)〜9月5日(木)

*団長:岩上頼子師(神戸教会)

*プロジェクト:クリニック救急車入り口舗装工事のお手伝い

*参加者:青年、医療宣教に関心のある方など、8名まで(*教育局との共催により青年への補助あり)

*関心のある方は局(担当:神栖教会 葛田敬子師)までご連絡ください。

▽来日宣教師たちの今年の予定は以下の通りです。

再赴任 ブランドン久芳宣教師

2019年2月頃

再赴任 ホーリー宣教師

2019年9月頃

帰国報告 ロビン宣教師

2019年6月(5月まで奉仕が可能)

■教育局

《中高生課》

▽東北ユース・キャンプ

日程:2月10日(日)〜11日(月)

会場:オーエンス泉ヶ岳(仙台) 〆とにキャン

日程:8月13日(火)〜16日(金)

会場:聖山高原チャペル

講師:安藤理恵子師(玉川聖学院 中部・高等部学院長)

テーマ:「Get Over」を翼を使え!」(イザヤ四〇・31)

■聖宣神学院

▽入学審査は3月4日(月)、願書提出は2月18日(月) 必着です。間違いのないように手続きを行ってください。

▽卒業式 3月1日(金) 午後1時30分開式。

▽ベテルハウスのお問い合わせ・利用申込みは、学務課・馬場姉まで。

▽神学院祈り会は2月5日(火) 午後6時〜7時、本部会議室。

▽BTC 後援会からのお知らせ

・創立70周年記念感謝献金は恵みに対して感謝を表したく、可能な範囲でお加わりください。

・「世話人」の推薦を引き続きお願い致します。

・後援会推進委員会は2月5日(火) 午後7時から、本部会議室。

消息報告



▽日本福音同盟理事会の要請を受け、教団運営委員会の承認を経て、岩上敬人師は4月より日本福音同盟総主事に就任することになりました。

教報PDFパスワード:6621

発行人 内山 勝 編集者 寺村秀嗣
 発行所 東京都千代田区神田駿河台一

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇
 OCCビル イムマヌエル綜合伝道団本部

新生宣教団 定価 一部〇〇円(税込)
 郵便振替 001107133609